

文芸研二年入

2025年8月1日
—NO. 170—

発行 文芸教育研究協議会
編集 文芸研事務局



かなり忙しい時期だったが、千葉大会に向けて実りある学び(5月神戸)

夏の大会で大いに学び合いましょう

委員長
辻惠子

◆夏はパワーを蓄える時期

第59回文芸研千葉大会が間もなく始まります。開催日の8月2、3日は、例年のことではありますが多くの他民間教育団体の夏季集会と重なっています。「日本作文の会」、「全国生活指導研究協議会」、「歴史教育者協議会」、「一般社会法人『人間と性』教育研究協議会（性教協）」、「日本生活教育連盟」「学校体育研究同志会」、「学力の基礎をきたえどの子も伸ばす研究会」、「新英語教育研究会」、「美術教育を進める会」……。ついつい「参加者の奪い合いになってしまう」、と考えてしまいますね。これは、近年八月上旬まで勤務がある上、八月下旬には新学期が始まるためです。でもちよつと見方を変えればいろんな民間団体が厳しい状況にもめげずに学びの場を維持し、多くの教師に向けてその扉を開いているということです。「民間団体の冬の時代」と言われる今であつても、たくさんの団体が「夏こそ学びを広める絶好の機会」と精一杯取り組んでいるのですからバイの奪い合いのように考えず、共に頑張っていきたいものです。さて、わたし達文芸研大会に来てくれる一般参加者

のことを思い浮かべてください。ふだんはどうしても目の前のことに対する想いがちنان先生たちが、「学びたいことを学びに行くんだ、そこでパワーを蓄えたい！」、そう期待してこの大会に来てくれるのです。遊びに行くより身銭を切って学ぼうとする誠実な先生たちです。とにかく行つてみよう！と決意してきたとはいえた世界をのぞくような先生たちにとって、例えば文科会で一回でも発言出来たらほつとすることでしょうね。大会の二日間が有意義な学びの時間になり、「文芸研の授業つていいな」と気づいてもらえるように、そして「ああ、来てよかつた！」と思つてもらえるように全力を尽くしましょう。

もちろんそれは、わたし自身の力になります。現場の困難を乗り切るためにも、こういう学びの場とネットで温かい交流を大切にしたいものです。

◆ 参加申し込みは早めに！交流会にもぜひ参加を！

大会を三週間後に控えた時期、まだ参加申し込みが少なくて現地実行委員はみな、気をもみました。サークル員でもまだ申し込みをしていない人がいるから、そこから増える・・・と思えば気が楽かもしれません。そこはやつぱり「このままではどうなつてしまふのだろう」という焦りと不安が入り混じつた思いでいっぱいになりました。サークル員はぜひ早く申し込みでほしい、とこれは来年度のために強く言いたいです。

◆ 戦後八十年、子ども達と平和について語る

今大会にあわせて出版される『文芸教育』136号では、「今こそ平和教育を①—戦後80年の節目に—」というタイトルで平和教育の特集を組みました。千葉大会を、何らかの形で平和を打ち出した会にできればよかつたのですが、力及ばずそうできかつたのが残念です。また、交流会参加申し込みが少なくて驚きました。交流会担当の佐藤さん、上西さんがとても気をもんで、これでは困ると檄を飛ばした（上西さんの文書）のはご承知の通りです。ただ飲んだり騒いだりの場ではなく、活動の一環としてとらえてほしいのです。上からの研修と違つて各自の自由参加ではありますが、だからこそ主体的に関わっていただきたいのです。特に提案者、司会者はがんばってきた思いを語っていただけみたいですし、それに対してもみんなで大いに称えたと思うのです。また、全国各地にちらばつているけれど、一つの運動体なのですから、各サークルの近況についても交流したいと思います。全国各地の状況の違いが見えるかもしれませんし、明日へのヒントがあるかもしれません。何より、集い、語り合うことでまた共にがんばろうという元気が出てくるのではないかでしょうか。来年度は、交流会についてもできる限り（大会参加と同時に）申し込んでくださるよう願っています。

でも、みなさんは二学期のはじめ、ぜひ子ども達と平和に関わる話をしてほしいと思います。子ども達に夏休み中に、何か平和に関わるテレビ番組を見た、

見学した、本を読んだ…そんな体験を話してもらうのです。もしも子どもの話がなかつたら、教師が何か話してあげてもいいのです。簡単にできることとしては、「夏の間にこんな本に出会つたので紹介するね」と、絵本の読み聞かせをする、これがいいですよ。（二学期になつてすんなり学習に取り掛かれない子には読み聞かせが有効です！）とにかく何かしら子どもに平和のメッセージを届ける、そんな二学期の始まりにしてほしいと思うのです。

夏は戦争と平和を子どもに語る時期です。でもその夏が終わつたところからでも始めることができますからね。



気が付けば・・・

千葉文芸研松戸サークル 沼澤賢

文芸研と出会つて約8年ほどが過ぎました。入ったきっかけは、「とにかく国語の授業の仕方がよくわからぬ！」「毎日ある教科だからこそ力を入れたい。」などと：子どもをよく育てたいという思いよりかは、目の前の授業をなんとしかたい気持ちで精一杯でした。

そのような中で、出会つたのが文芸研でした。とくに、周りにサークル員がいるわけでなく、インターネットで「国語 授業」で調べているうちに、「文芸研教育とは、自己と自己をとりまく世界を、よりよく変革する主体に子どもを育てる、革新的な営みです。そのため、国語科では、ことばによる人間の真実や…」という言葉が目にとまりました。「なんか、これはすごい！」そして、ここで学んでみたいという自分の気持ちが湧きました。

はじめの1年間は、自宅の千葉から東京のサークルに通い、学習を重ねました。サークルで学んだことを授業で実践してみると、子ども達の反応もよく、自分の授業にも少し自信がもてるようになりました。そして、だんだんと自分の学びたいという心に火がつき、気がつけば「青年学校」という、文芸研の基礎基本を学べる学習会にも参加していました。

これまで、自分の採用された県の仲間しか知り合
いがいませんでした。しかし、青年学校に通つてみると
と、全国各地から先生たちが学びに来ていて、驚いた
こと、そして、ワクワクしたことを今でも覚えていま
す。私自身、文芸研を立ち上げた西郷先生に出会うこ
とはかないませんでしたが、その教えを受け継いだ先
輩方の話は、何時間でも聞くことのできる、そんな魅
力と学びとワクワクがそこにはありました。

こうして、文芸研との出会いから今までの道のりを振り返った時、たくさんの気付きがありました。

一つは、子どもの見方です。サーケルの例会などに参加し続けると、「一人一人の子どもの思い、本音を大切にしたい」「子どもから学ぶこと」などと、子どもを大切にすることの具体を国語の授業を通して教えていただけました。そしてまた、目の前の子どもを大切にすると「当たり前のことから出発することの大切に気付かされました。当たり前といえば、それまでですが、自分にとつて、「子ども大切にする」ということが、肌感覚で感じることができたのは、大きな自信となりました。

もう一つは、授業への自信です。文芸研では、確かに教材分析・解釈を大切にしています。

おかげで自分自身も教材分析・解釈の大切さが身に染みてわかるようになつてきました。そして、その授業の自信を支えるのは、サークルの定例会はもちろんですが、毎年夏に行われる全国大会での発表が大きなかつ

機会となりました。自分自身もコロナ禍では、ありましたが、数年前に提案をさせていただきました。発表までの道のりは、これまで経験したことのないことの連続でした。冬の実践研では、教材分析・解釈をみんなで検討します。教材の分析や解釈について、全国の先生からご指導をいただきます。それ経て3学期に授業に臨みます。そして、授業した後は、授業記録の作成です。文芸研では、子どもと教師のやりとりがわかるように記録をつくっていきます。ですから、授業を録音して、それを聞いて、文字に起こすという作業がありました。この作業はもちろん大変ですが、自分の授業を振り返ることができるということが、一番の勉強になります。「もつと子どもの声を聞けばよかつた」「この時に、教師（自分）の発言はないほうがよかつた」などと反省するばかりです。同時に、どこの子の発言も生かしてみたい。意味づけていきたい・・・もつと子どものことを大事にしたいという思いも芽生えてきました。もちろん、授業のねらいやめあてを達成することは大切ですが、自分の中では「授業で子どもを大切にする」とは、どういうことなのかも気が付く事ができた貴重な財産となりました。

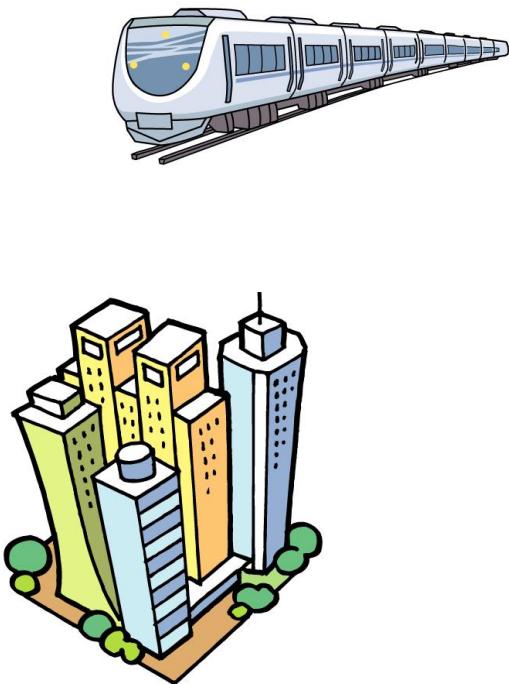
このような自分の対話やサークル内での検討を経て、春の実践研でさらに全国の先生方にたくさん指導をいただき、全国大会への提案となりました。

そして、何よりも大事なことは、「仲間」がいたことです。授業で困ったことや分からぬことがあった

このような自分の対話やサークル内での検討を経て、春の実践研でさらに全国の先生方にたくさん指導をいただき、全国大会への提案となりました。

導をいただき、全国大会への提案となりました。そして、何よりも大事なことは、「仲間」がいたことです。授業で困ったことや分からぬことがあつた

時など、いつでも親身になつて話を聞いてくださつたり、的確なアドバイスをいただいたり……時には、おいしい食事も共にしたりなど。勤務先の仲間ともまた違う「仲間」ができていてほしいと思います。そこには、たくさんの気付きや出会いが待っています。私自身の教育観や生き方がパッと変わったように、自己を変えることができるチャンスです。少し時間はかかるかもしれません、ここで学びは一生モノです。ぜひ一緒に学びましょう。



元事務局長としての歩み

大阪文芸研枚方サークル 山中尊生

なんで文芸研? やっぱり文芸研

佐々木さんから事務局長のバトンを受け継ぎ、年近く事務局長として文芸研の運動に関わってきました。今回、「事務局長としての足跡を文芸研ニュースに書いてください。」と松山さんから聞いて、一度自分のたどつてきた道を振り返ってみました。

これまで、西郷会長、上西委員長、辻委員長の元で事務局長としての仕事を全うしてきました。事務局長の仕事は多岐にわたります。文芸研全体の会計、実践研の段取り（宿舎の手配、交流会の手配、案内の送付、参加者集約後の旅行社とのやりとりなど思い出すときりがないほどに……）来年の大会の分科会の候補者の決定・調整、サークル代表者会議の連絡・調整・資料作成をはじめ日々色々な方と連絡をしながら走り回つてきました。今でも思い出すのは、実践研の案内を以前は封筒で出していたので、3月末から4月の忙しい時期に、80通以上の封筒に往復ハガキと資料を入れる作業を家で夜中までかかつて作業していたことを思い出します。ポストに入れるのも80通ならけつこう大変です（笑）。全国サークルの方への連絡も

私からの連絡は、事務的なお話やお願ひが多く、心苦しいことも多々あつただろうなあと思います。

妻からも、「仕事も大変なのに、そんなに作業してて大丈夫なの？」と心配されたことも一度や二度ではありません。事務局長として、学びより作業量の多さに「なんで文芸研、ずっとやり続けているのだろう。」と自問自答することもありました。大変だったが最初に出てきた感想でした。

今でこそ、さまざまな仕事を各部で引き取つてもらひ、事務局員の人数を増やし分担することができきましたが、決して容易い道ではなかつたなと今でも思ひます。次の事務局長は、山口東の酒井さんです。酒井さんは、素晴らしい人柄です。また新たな事務局長として文芸研を支えて下さっています。応援したいと共に、私も頑張りたいと感じています。

「その役にふさわしい力を持つているから指名するのではない、役がその人を鍛え、役にふさわしい人間に育てるのだ」

事務局長を交代したときに、上西さんからねぎらいの言葉をいただきました。その中で西郷会長の言葉を紹介していただきたいのですが、胸に響きます。

大変だつた。大変だつたけど、「大変だつたなあ。」と感じた倍以上素晴らしいこともあることも溢れていきました。たくさんの方から温かい言葉をかけて頂いて

たり、縁を頂いたり、希有な経験をさせていただきました。家族もずっと応援してくれたり、学ぶ仲間ともつながつたりと素晴らしい10年間だつたともふり返ることができました。

改めて、支えて下さつたたくさんの方に「ありがとうございます」と伝えたいです。

現在は、文芸研の副委員長として、また組織部の一員として運動に携わっています。2024年の徳島大

会で実践報告の時間を頂きました。その中で、自分の実践とは何か。自分が文芸研でしたいことは何かを問い合わせる機会になりました。その中で語った「現役200人の仲間をつくりたい。」は色々考えての思いです。西郷会長が亡き今、文芸研の魅力を伝えることがとても大切です。その先を考えていくと、さらに文芸研の仲間になつて下さつた後のサークル活動がより魅力的になつていくことが必要だと感じました。西郷文芸学、教育的認識論、全国の仲間とのつながりは、文芸研の大きな魅力です。「難しいからこそ面白い。」「人間について考えるのはどこまでも限りない。」「大人でワクワクする学びってすごい。」全国の国語についている先生方、今の授業がしつくりきてない先生方がと繋がれたらと思います。

事務局長の仕事は、大変でした。大変だつたからこそ、大きく変わり成長することができます。たくさんの方の感謝と共に、未来へもう一步歩みを進められたらと

思います。

なんでも文芸研を続けるだろうという問いは、やっぱり文芸研おもろいなあという答えと共に、もつともろい文芸研に大きく飛躍させていたらしいなと思います。

事務局通信

2025年7月12日現在の山中尊生

今年も熱い夏がやつてきました！第59回千葉大会は、久々の首都圏での開催です。秋山大会実行委員長、沼澤大

会事務局長をはじめとした、

現地実行委員の皆様が計画を立て、大会成功に向けて一步

一歩積み重ねてきてくださつ

た大会がいよいよ始まります。また、厳しい状況の中で

も動員目標達成に向け、各サークルでの粘り強い取り組みもありましたが！

荻上チキさんの記念講演や、美炎（m i h o）さんの馬頭琴演奏なども、大会を盛り上げてくれます。ところ、学びどころ満載の初日です。そして、二日目は



今後の予定

- 8月4日（月）青年学校
- 8月11日（月）分科会内容 総括提出
- 8月23日（土）サークル代表者会議
- 12月26日（金）、27日（土）冬の実践研

☆文芸教育、授業シリーズ販売をよろしくお願ひいたします。まずは「一つの花」完売を文芸研全体の目標として掲げております。「一つの花」は二学期教材ですので、ぜひぜひ宣伝、紹介などよろしくお願ひします。また、サークルでの読み合わせや、各地の学習会での紹介などで、文芸教育や授業シリーズのよさをたくさんの方に伝えていきましょう。各サークルのご協力をどうぞよろしくお願ひします。

☆サークル会費納入のお願いです。まだお済みでないサークルは全国大会での納入、または振込での納入をお願いします。ご協力よろしくお願ひします。

分科会です。一年間じっくり練り上げてきた分科会の提案を、参加者の皆さんと一緒にさらに良いものにしていけたらといいなと思います。千葉大会をみなさん手で成功させていきましょう！よろしくお願ひいたします。

【事務局員の妄想日記】ある日の学級通信より

『生き残れエビカツサンド』パン好きな担任。京都市内にまるき製パン所というパン屋があります。この春に知って、何度も通っています。

先日、「ランチの買い出しに一人まるき製パン所へ。車から京都水族館、京都タワーを見ながら、そのすぐ北へ。

午後一時。パン屋につきました。家族のLINEには、注文が来ています。このパン屋は、コッペパン自体がとてもおいしいパン屋です。「エビカツ×3」「ハムカツ×3」「チョコクリーム×3」「ポテサラ×1」私以外の家族の注文にくわえ、私の食べたものを買えば、後は家族のもとに帰るだけ。



店前には、四人のお客様がならんでいました。店頭にならんでいるパンをかぐにんしました。私は、目を丸くしました。なんと、ほとんどない！もしかして、売り切れ間近なのか。

「ここにあるだけなんですか…。」

前のお客に話す店員さんの明るい声が聞こえてきました。これはまずい。もう一つしか残っていなかったのです。エビカツサンドが一つ。この時点でもう夢は消えました。家族に託された願いを、父としてかなえてやることはできなくなりました。

一番つらいのが、この目の前のマダムが残り二つとなりました。またお待ちしています。」のあたたかい言葉を、体と心全てに受けた車にのりこむことになります。何をしに来たのか。でも、マダムが一つ買ったからといって、悪いわけではない。マダムだってならんで自分の番が来たわけだ。残り一つを買うけんりがあるので。マダムが買い物をすませました。マダムは私の右がわへと歩き出しました。店頭には、なんとエビカツが一つ残っていました！おおー。マダム。あなたはもしかして、二つ買いたかったのではないか。まさかこのパン屋まで来て、エビカツ一つで満足できるわけは

ないでしょ。ほかにパンがあればいっぱい買って、あのコッペパンのやわらかさで心みたす休日を送りましたはず。それを、今来た男に、エビカツ一つ残してさつて行くなんて。おお。ありがとう。マダム。

「もう最後の一つです。すみません。」

「では、エビカツ一つで。」

あのコッペパンを楽しみにしていた家族は、「コッペパンの口」で待っていました。ほかのパン屋で色々なパンを仕方なく買って帰った理由を話しました。エビカツを五人で分けて食べました。一つを五人で分け合いました。

一つ残してくれたマダム、あなたにも幸あれ！

【やっぱり楽しい作文指導】
はじめてのオムライス

Mさん（三年）

わたしは、日曜日にはじめてオムライスを作りました。

わたしは、かまぼこをきるところがわからなかつたからおかあさんにききました。

そしてさいごのひっくりかえすときに、しつぱいでしまいました。けど、おかあさんが、てつだつてくれてきれいにできたのが、4つありました。しつぱいしたのが、2つでした。

さいごに、フルーツを作りました。

家族で食べようとしたら、おかあさんが、「きょうは、いちりゅうシェフが作ってくれました。」といいました。みんなは、わたしが作ったごはんをぜんぶ食べてもらいました。

うれしかつたです。

さいごに、みんなが、「おいしかつた。」っていつてくれてうれしかつたです。

もういかいがうりょううりをみんなに食べてほしいです。

お母さんのサポートもあって、いいオムライスができたね。オムライスはおいしい分、作るのがむずかしいんだよ。よく作れたね！どんなシェフもしつぱいしながら、それをうけとめることでレベルアップします。料理を作る人の気持ちが分かってきたでしょ。全部食べてくれるってうれしいね！それだけおいしかったんだな。さすが、一りゅうシェフ！